



松本山雅FC

松本山雅FCと盛り上げるわたしたちの松本市 1/2

信州大学教育学部附属松本小学校3年西組の探求授業「総合的な学習の時間」の学びの中核に松本山雅FCを据え、クラブを通じて地域社会の様々な側面に関心を広げ、生徒たちが「社会」と「わたし」を結びつけて考える探求的な授業を年間を通じて取り組んでいただきました。

TOPチームの選手・コーチングスタッフ、フロントスタッフ、サポーター団体、パートナー企業など多くの人に関わり、学校だけでは得ることができない学習の機会を創出できました。



活動場所

かりがねサッカー場、信州大学教育学部附属松本小学校、マサムラ上土店、サンプロアルウィン、大町市山岳博物館、長野Uスタジアム、味の素フィールド西が丘



協働者

行政、企業、学校、学生、ファン・サポーター、スタジアム、飲食店、選手、農家、ボランティア、生徒たちのご家族

協働者名

株式会社信州グリーン、信州大学教育学部附属松本小学校、セイコーエプソン株式会社、アルピコホールディングス株式会社、富士電機株式会社、株式会社マサムラ、有限会社てまりバス、大町市立山岳博物館、ウルトラスマツモト、長野銀行、明治安田生命保険相互会社、チームバモス



協働者の声

信州大学教育学部附属松本小学校／北澤 亮介 氏



1年間の活動を通して、子どもたちは多くの人と出会い、想いを知り、まちの魅力を実感しました。そして、地域の一員として自分の住むまちを盛り上げたいという意識も芽生えました。松本山雅FCの皆さんから夢や希望を届けていただいたことに、心から感謝です。これからもクラス一同山雅を応援しています！ OneSoul！



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)
- 5 [公式サイト⑤](#)
- 6 [公式サイト⑥](#)
- 7 [公式サイト⑦](#)
- 8 [公式サイト⑧](#)
- 9 [公式サイト⑨](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





松本山雅FC

松本山雅FCと盛り上げるわたしたちの松本市 2/2

Story

信州大学教育学部附属松本小学校の取り組みで「総合的な学習の時間」という学習があり、教科の枠を超えた横断的・探求的な学びを通して、児童が自ら課題を見つけ、考え、より良く解決しようとする力を育むことをねらいに実施されています。地域に根ざした活動をしている松本山雅FCを学びの中核に据え、生徒たちが「社会」と「わたし」を結びつけて考える探求的な学習に年間を通して取り組み、地域社会の多様な魅力や課題に触れる機会を設ける運びになりました。松本山雅FCとの出会いと学びの起点は公共施設の見学で練習会場を訪れた際に、TOPチームの全選手が児童に駆け寄り、ハイタッチを交わしたことが、学習に大きな影響を与える契機となりました。



クラブの選手OBでクラブプロモーション担当の片山が教室へ訪問し、クラブの成り立ちや歴史、クラブ理念、ホームタウン活動やステークホルダーの存在などを伝え、生徒たちの関心が一気に広がりました。

ホームタウン活動やステークホルダーについて学びたいとの生徒からの要望があり、その中でもスマイル山雅農業プロジェクトの活動に関心を持っていたさき、学校敷地内の畑で青大豆の栽培を協働で行いました。

また、パートナー企業6社にも出張授業をしていたさき、各企業の説明とクラブとの関わりや思いなどをお話いただきました。

クラブで働く大人にも関心が広がり、小澤代表取締役社長やTOPチームGKコーチが学校を訪問し、それぞれの業務についてやクラブ・地域への想いを伝え、生徒たちにとって良い刺激になる講話となりました。

2名の講話の中で「ぜひスタジアムへ来てください」との言葉を受け、教員・生徒とご家族の約100名の大応援団がホームゲームを観戦。

試合の迫力やサポーターが生み出す一体感などに触れることができました。

試合観戦後、応援にも興味を持った生徒たちが多く



いた為、サポーター団体「ウルトラスマツモト」の方々をお招きし、主要チャントの練習を行いました。11月に再び試合観戦を行い、練習の成果を発揮する機会も設けることができました。

新人研修の一環で4名の選手が学校を訪問。クラブ直営の「喫茶山雅」で選手・生徒のコラボ弁当をホームゲームで販売することになりました。メニュー考案も行い、実際に店頭(2試合)に立ち販売を行った結果、各150食完売となりました。

この学習を通じて、クラブと地域と学校を繋ぐ学びの可能性の広がりを感じました。

人と人を繋ぎ、地域の誇りや未来を育む存在として、クラブの持つ力を教育に繋げたいと思います。